

親潮

北水同窓会誌

2020
315
No.1

Balance de Ocean

LASBOS

Learning and Study by Balance de Ocean System

北海道大学では、
海の分野でトップサイエンティストの
早期発掘と育成を目指した
「バランスドオーシャン」
教育プログラムを実施しています。
海に関する学問の演習や実習について、
WEB上で学ぶことができます。
教育システムLASBOSを開発し、
高校生や大学生、研究者に
LASBOS Moodleを介して
提供しています。

写真提供：鈴木 将太 「1月のワカメ(白尻)」

第315号
令和2年度 第1号

OYASHIO

北水同窓会のEメールアドレスが変更になりました | ホームページをリニューアルしました
hokusualumni@gmail.com | http://hokusui.net



LASBOS card の表紙写真より

特集 北水の今

この春D3になった院生紹介

- 退職教員あいさつ
- 追悼
- 第100回定期総会報告
- 新刊案内
- 支部・クラス会報告
- ほか

親潮

第315号

令和2年度 第1号

OYASHIO

CONTENTS

特集 北水の今

この春D3になった院生紹介 3

退職教員あいさつ 8

梶原 善之氏(昭53卒)／清水 晋氏(昭53卒)／宮下 和夫氏(特別会員)

追悼 10

木下 哲一郎氏(特別会員)

第100回定期総会報告 11

寄稿 17

木村 暢夫(昭55卒)／向井 徹(昭61卒)／大木 淳之(特別会員)

新刊案内 21

今村 央(昭63卒)／河合 俊郎(平12生)

支部会・クラス会報告 23

北水同窓会青森支部 令和2年総会・講演会・懇親会報告

昭和53、54年北水増殖学科卒業還暦会 卒業後およそ40年目の集い

北水同窓会 東京支部総会・新年会報告

北水同窓会広島県支部会 19 報告

北水同窓会小樽支部総会

学位取得者 27

卒業生の就職先 27

会員の異動 28

会員死亡通知 29

親潮投稿規定・編集後記 30

会員各位

次期総会について

既にお伝えしておりましたように、今年の北水同窓会総会(第100回記念総会)はコロナ禍の影響で1年延期とさせて頂きましたが、未だコロナ禍の収束が見込めない状況にあります。そのため、来年5月に開催予定の次期総会も、今まで通りの形式(一堂に会して総会・懇親会を行う形式)では実施できない可能性があります。現在幹事会では、次期総会と記念事業の実施方法について検討を進めておりますが、会長をはじめとする役員の皆様のご意見も頂きながら、年内には結論を出し皆様にもご連絡したいと考えております。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

北水同窓会幹事長 宮澤 晴彦

親潮315 表紙写真の説明

LASBOS card 019 : CTD 採水システム

LASBOS card 008 : スルメイカ

LASBOS card 021 : *Eucalanus bungii*

LASBOS card 013 : マコンブ

LASBOS card 009 : 海水観測

この春D3になった院生紹介

アベ タカシ
阿部 崇志

海洋生物資源科学部門 海洋共生学分野(工藤秀明教授)



Q1. 研究紹介・面白いと感じているところは？

サケ類は、河川でふ化して外洋域で成長し、産卵のために生まれた川に回帰（母川回帰）します。沿岸から河川上流部までの遡上には、河川水のニオイが重要であり「嗅覚刷込仮説」が提唱されています。記憶形成と想起には、シナプス伝達が重要です。私は、神経伝達物質の放出を制御するシナプス前部の神経分子群の遺伝子に着目し、サケ類の嗅覚器官と脳における発現領域および回遊の中でも特に刷込・想起時期の発現変化について分子生物学的手法で解析しています。興味深いことに、わずかなニオイの違いを識別して母川回帰するサケの脳では、ヒトを含む哺乳類と共通の遺伝子が機能しているようです。

Q2. 今後の展望は？

ふ化して間もなく降海するサケとカラフトマスでは、シナプス前部の分子群は刷込に限らず初期成長にも関連して遺伝子発現が増加する可能性が示されました。そこで、ふ化した翌年以降に降海・降湖するサクラマスとヒメマスでも同様の解析を行い、刷込時期に特異的な発現変化なのか明らかにする予定です。また、近年サケ類の漁獲量は低迷し

ていますが、刷込・想起の神経メカニズムの研究はふ化放流事業のさらなる高度化に資する知見となり得ます。将来的には、神経生理学分野の手法をベースにサケ類の資源保全管理の一助となる研究を開いていきたいと考えています。

コシダ アリ
越田 有

海洋生物資源科学部門 海洋共生学分野(安井肇教授)



Q1. 研究紹介・面白いと感じているところは？

北海道渡島半島の東側はマコンブ漁場として知られているのに対し、西側には優れたコンブ資源が存在しないと一般には思われがちです。しかし、まだ有名になっていないだけで、渡島半島の日本海沿岸域にも特色あるコンブ類（ホソメコンブやチヂミコンブ、ツルアラメなど）が分布しています。

私は、渡島半島沿岸のコンブ目植物について、今後の活用のための新しい栽培方法を検討する目的で、ホソメコンブを中心に、エンドウコンブ、チヂミコンブ、ツルアラメなどを材料に、利用の盛んなマコンブやシリコンブと比較しながら、様々な水温、光量、光質条件下で、配偶体や胞子体の培養実験を行ってきました。

Q2. 今後の展望は？

卒業研究を始めた頃や、修士課程の頃と比べても、徐々にホソメコンブの魅力が見直されつつあるのを手応えとして感じています。今後も、コンブ類だけに留まらず、低利用の海藻類を利用していく上で必要となってくる生物学的な特性について、研究を続ける予定です。

ゴミシンタロウ
五味伸太郎

海洋生物資源科学部門 水産工学分野(高木力教授)



Q1. 研究紹介・面白いと感じているところは？

パラメーターはこんな感じで。入力データのパスも確認した。計算開始ファイルをドラッグ&ドロップ...

「よろしくお願いしまあああああす!!!!」

立ち上がるコンソール。ウインドウを埋め尽くすエラーコード。廊下に響き渡る叫声。本日23回目。

海洋生物資源科学専攻、水産工学講座の五味伸太郎です。網漁具動態の可視化や制御技術に関する研究を行っています。制御・予測分野で発展したデータ同化手法を応用し、漁業者が意図する形状・動態に網漁具を自在に制御できるシステムの開発を目指しています。研究では、データ取得のために漁船に乗船させていただくこともしばしば。その際に、船上でご馳走になる新鮮なイワシの刺身！旨し！！この瞬間が私にとって最高のモチベーション

です。

Q2. 今後の展望は？

この味覚を少しでも長く後世に伝えられるような漁獲技術の創出に向け、日々の研究に取り組んでいます。現在は主にまき網漁具を対象としていますが、底曳き網や定置網など様々な網漁具も扱いたいと考えています。

コウ
高 赫

海洋応用生命科学部門 増殖生物学分野(井尻成保准教授)



Q1. 研究紹介・面白いと感じているところは？

私は中国の遼寧省から参りました高赫と申します。今北海道大学水産科学院の淡水研究室でティラピアの性別分化について勉強しています。今は博士三年生です。

ナイルティラピアは、安定したXX/XY型性決定様式を持つことから、主に性決定遺伝子によって遺伝的に生殖腺性分化の方向が決定されると考えられています。さらに、ホルモン投与により偽雄

(XX♂)や超雄(YY♂)の作製に成功しており、これらを利用して遺伝的全雌群および遺伝的全雄群の生産を行なうことが可能になっています。

濾胞刺激ホルモン(FSH)は脳下垂体から分泌される糖タンパク質ホルモンです。本研究では、ナイルティラピアの生殖腺性分化に対するFSHの関与を調べることを目的として、以下の実験をおこないました。これを仔魚へ連続的に顕微注射し、生殖腺における、性分化関連因子の発現を調べることで、FSHがナイルティラピアの性分化に及ぼす影響を調べることができます。

Q2. 今後の展望は？

卒業後、中国に戻り、養殖に関連する科学研究や普及活動を行います。

タカタニ ナオキ
高谷 直己

海洋応用生命科学部門 生物資源化学分野(細川雅史教授)



Q1. 研究紹介・面白いと感じているところは？

海洋生物に含まれる「カロテノイド」と呼ばれる色素成分の健康機能性について研究しています。具体的には、海産サンプルから脂溶性成分を抽出し、クロマトグラフィーによる分離精製を行い、単離したカロテノイド色素について、in vitro、in vivoでの機能性を評価します。最近では、生活習慣病を背景とした慢性肝炎に対して、ワカメ等褐藻類に

含まれるカロテノイドが抑制作用を示す可能性を明らかにしました。面白いと感じるところは多々あります、特に、海洋生物由来成分を分離していく際にどんな色素が現れるのか非常にワクワクする瞬間です(画像:海藻抽出物のTLC分析の様子)。また、新たな生理作用が明らかになったとき、誰も知り得ぬ生命の真理を垣間見た気がしてこの上ない高揚感を覚えます。ひとり深夜の研究室で興味深いデータが出たときのあの快感を一度味わうと、もう研究から抜け出せません(笑)

Q2. 今後の展望は？

カロテノイドの生理作用と体内代謝動態との関連を明らかにしたいと考えています。他の食品成分と同様に、摂取したカロテノイドも私たちの身体の中で代謝されると考えられますが、その詳細は不明です。そこで、カロテノイド代謝の流れ(代謝動態)を明らかにした上で、生理作用を個々に評価していきます。これにより、安全性や効能を加味した応用開発研究が可能になると考えます。超高齢化社会においてより多くの方の健康を支えるための基盤となる研究を開拓していきたいと思います。

マツイ ナツキ
松井 菜月

海洋生物資源科学部門 資源生物学分野(松石隆教授)



ストランディング個体を分析するために胃を探しているところ。向かって右。鯨体の上へ登るのに大変苦労した。

Q1. 研究紹介・面白いと感じているところは？

ネズミイルカの生態について、食性・生活史・分布の3点から調べています。ストランディング（漂着・混獲）したイルカの死体を解剖し、得られたデータを少しづつ積み上げています。ネズミイルカは混獲報告の多い生物です。将来、本種の個体数減少や漁獲物との軋轢が生じた場合に対応できるような基盤作りにつながることを目指しています。

面白いと感じる場面は、やはり調査です。獣医ではないにも関わらず、解剖で骨の髓まで野生動物を調べ尽くせる環境は滅多にないと思います。長年同じようにストランディング調査を続けていますが、漂着する鯨種や海域などトレンドが毎年違っており、飽きることは決してありません。

Q2. 今後の展望は？

これまでの研究で、北海道周辺ではネズミイルカは出産・育児を行わないことが分かってきました。出産海域が別海域にあるならば、より広い海域を調べる必要があります。死体の有効活用を続ける一方で、生体での研究にも着手できればと思っています。

オオカド ジュンペイ
大門 純平

海洋生物資源科学部門 資源生物学分野（綿貫豊教授）



Q1. 研究紹介・面白いと感じているところは？

私は、ウトウという500-600g程度の海鳥の採餌行動や餌選択について調べています。ウトウは、北海道周辺にあるさまざまな離島で繁殖しており、私は修士研究であっちこっちの繁殖地に赴いて、利用されている餌や繁殖状況を比較し、道北の日本海側にある天売島とトド島（礼文島）は、比較的近くにある繁殖地にもかかわらず、トド島の方がいつも繁殖状況がよい、ということを発見しました。現在は、このような状況がなぜ起るのかに着目し、トド島と天売島で繁殖する親鳥が餌をとる環境の違いなどをGPSデータロガーという装着機器を用いて調べています。離島での長期にわたるフィールドワークでは、予想外の面白い現象に遭遇することも多く、鳥肌が立つほどドキドキすることもあります。また、泥にまみれてとったデータを解析した際に、予想を裏付けるような結果が出たり、新たな視点からの発見があったときなども醍醐味だと思います。

Q2. 今後の展望は？

海鳥は、時々刻々と変動する海洋環境に合わせて柔軟に餌や行動を変える非常に興味深い動物です。一方で、海鳥を理解するためには、彼らの餌である魚類や動物プランクトンの生態や変動を知ることも重要です。博士課程を卒業した後は、研究対象を幅広く持ち、最終的に餌生物と海鳥の両方の視点を持った研究者になれたらと考えています。

シマフミカ
島文華

海洋応用生命科学部門 育種生物学分野（藤本貴史准教授）

Q1. 研究紹介・面白いと感じているところは？

様々なサケ科魚類の雑種、特に北海道沿岸に回帰するカラフトマス、サクラマス、シロザケ、ヒメマスの雑種の研究をしており、それら雑種の生存性や成長、生殖能力などの養殖品種としての特性を長



期間飼育し調査しています。サケ科雑種は、親種の組合せや倍数性によって生存性や生殖能力が大きく変化するため、実際に雑種を誘起し飼育することで新しい発見があることがとても面白いです。さらに、精子の凍結保存技術を用いることにより、産卵期の異なる種同士の雑種が作出でき、これまで調査できなかった雑種の調査が可能となり、サケ科雑種研究の可能性が広がりました。

Q2. 今後の展望は？

カラフトマスとサクラマスの雑種では、性比に偏りが生じ、その生殖腺は遺伝的な性とは異なる間性になることが分かりましたが、これらが生じる要因は不明です。今後は、雑種の生殖腺を構成する細胞や、卵巣や精巣に特異な遺伝子の発現動態を調査し、サケ科雑種の性に関する謎を解明したいと思っています。

明らかにするためにはまず本種の性分化の分子機構を理解する必要があると考えられます。そこで私は、天然個体の性分化過程に着目し、生殖腺が形態的に分化する時期を調べ、性分化に関与する遺伝子の探索も行なっています。性決定様式もわかつていないウナギの性分化は手強いですが、新たな結果が出たときには面白さを感じます。

Q2. 今後の展望は？

卒業に向けて研究と執筆に今以上に専念していくたいと思います。また、来年以降もウナギの研究に携わっていく予定なので、今後はウナギ種苗生産と完全養殖の技術向上に貢献できるように頑張りたいです。



ホリウチ モエミ
堀内 萌未

海洋応用生命科学部門 増殖生物学分野(足立伸次特任教授)

Q1. 研究紹介・面白いと感じているところは？

ニホンウナギは種苗を天然に依存しない安定的な種苗生産技術の確立が求められていますが、飼育下では性比が著しく雄に偏ることが知られています。しかし、その要因は明らかになっておらず、

退職教員あいさつ

退職のご挨拶

梶原 善之(昭53ギ)



私が水産学部に採用されたのは昭和58年(28歳)、練習船北星丸の三等航海士でした。特設専攻科は修了し海技免状も持っていましたが、実際の操船等の経験は全くなしの若造が、いきなりの航海当直はかなり焦りましたが、一緒に組んだ操舵手が独航船の船長経験のある方で、4時間の当直中レーダーとチャートテーブルを行ったり来たりする私を横目に笑っていました。そうして始まった航海士の仕事、九州生まれには言葉の壁もありました。乗組員同士の会話が全く理解できず、仕事の内容や自分が何をすれば良いのか、ちんぶんかんぶん。何とか理解できるまで、2年以上はかかったように思います。

当時の航海計器はロランCの全盛期で、ようやく衛星航法のNNSSが搭載された時期でした。そして海洋観測はナンゼン採水器と転倒温度計! 夏とはいえ気温が一桁の北洋航海での海洋観測は辛いものがありました。しかし、5,6年後CTDという観測機器が登場し、おしょろ丸と北星丸にも搭載されました。

両船は漁業学科や特設専攻科の学生を乗せて、夏期は、鮭鱈流し網実習で北洋へ。冬期は、南方へ行きマグロ延縄実習、そしてハワイや東南アジアへの寄港。2ヶ月間の辛く厳しい実習の中にも、楽しみと面白さがありました。

しかし2002年特設専攻科(以下特専)が廃止されたのと時を同じくして、北星丸はその役目を終えて引退。特専は航海士養成課程でしたが、卒業生で航海士になった者はそう多くはいませんでした。しかし水産界やその他の業界でも、特専修了生の優秀さは高い評価を受け、今でも大勢の卒業生がそれぞれの業界で活躍しています。

その後、おしょろ丸へ移った私は50歳代で病気になってしまいました。その折は皆様には多大なご心配とご迷惑をおかけしました。紙面を借りてお詫び申し上げます。6年前におしょろ丸次席一等航海士として復帰し、航海当直には入らず学生指導専任の航海士でしたが、最後は船上で終わることができました。

この37年間で、練習船の役割と船を取り巻く環境は大きく変わりました。しかし海で学生を育てるという基本理念は変わっていないと私は思います。

これからの練習船を若い乗組員達に託して下船します。お世話になりました。

離職にあたって

清水 晋(昭53ギ)



平成31年に64歳で定年退職し、引続き1年間の特任教員に採用いただき、令和2年3月末に離職いたしました。平成2年に水産学部漁業学科助手として奉職して30年間、学生時代(1973年水産類入学)を含めて47年間の長きに渡り、皆様のご指導、ご鞭撻、ご協力を賜り、本当にありがとうございました。

振り返ると1975年秋から函館に住み、5月の母船式サケマス漁業出漁、8月の港まつりでは花電車や港踊り、花火大会が盛大でした。青函連絡船が発着する函館駅や大門はとても賑わっていました。76年には北星丸3世が竣工し、学生定員が40名に増え、翌77年に行われた我々漁業学科4年生の乗船実習は、履修学生全員が新造北星丸に一度に乗船でき、例年2回の航海が日数2倍の1航海になりました。日本海周り稚内寄港、知床岬で折返しする北海道沿岸半周を往復し、流網に変えて初の旋網操業でした。同年、米ソ両国との「200カイリ漁業専管水域」設定に日本も対抗設定し、北洋漁業の大きな転換点でした。

大学院生時代には、81年に新実験棟が、83年におしょろ丸4世が、87年には第二研究棟が竣工しました。88年に青函連絡船は廃止され、同年、青函トンネルが開業しました。卒業式後、大門で祝杯を挙げ、桟橋で寮歌を歌い、連絡船を見送ることもなくなりました。89年に母船式サケマス漁業は最終出漁となりました。

90年に学位を賜り、同年、助手に奉職しました。竿釣の基礎研究から、延縄の漁獲特性について研究対象を広げました。92年にうしお丸2世が竣工し、95年は学科改組で漁業学科は海洋系と生物系が離れて工学系の海洋生産システム学科となりました。99年にはシステム学科3年生の担任でした。おしょろ丸乗船実習は日本海周りの隱岐島(台風避難)で退避訓練、東シナ海で底曳網実習、沖縄那霸寄港(琉球大瀬底実験所・美ら海水族館・伊計島等研修)、鹿児島寄港(鹿児島大の歓迎、魚市見学)、そして太平洋周りで帰港の特別な航海でした。担任は全行程3週間乗船でき、幸運でした。

2000年に大学院改組で水産科学研究科となり、漁業学専攻は環境生物資源科学専攻に含まれました。教官は大学院重点化で学部から大学院に配置換えです。同年、米国ワシントン大学海洋・水産学部でねむり釣針の漁獲特性等について10ヵ月間、在外研究しました。翌01年、同窓生達とマグロ延縄

獲削減に関して海亀の行動やねむり釣針の漁獲特性の研究を始めました。また、漁業の混獲投棄削減に関する共同研究に参加し、北海道の定置漁業、延縄漁業の混獲実態を調査研究しました。02年には水産専攻科(特設専攻科)と北星丸3世が廃止されました。04年に法人化により国立大学法人北海道大学となり、教員と呼ばれます。05年の改組で、大学院水産科学研究科は学生所属の水産科学院と教員所属の水産科学研究院に分割され、海洋生物資源科学部門海洋資源計測学分野に配置換えです。06年に海洋生産システム学科は海洋系と共に海洋資源科学科に改組されました。07年に助教授から准教授に配置換えになり、同年5月には創基100周年記念式典が挙行されました。

08年から、渡島太平洋岸の漁協と定置漁業の皆様のご協力により、スケトウダラ稚魚の入網量調査や海亀の標識放流を始めました。また、戸井、福島、松前の漁協と漁業者の皆様のご協力により、うしお丸マグロ延縄実習を開始し、併せて沿岸マグロ延縄やねむり釣針の漁獲特性について研究を始めました。11年には東日本大震災が起り、同じく、おしょろ丸出港見送り中に中央埠頭がゆらりゆらりと揺れた不気味さにすくみました。13年に海洋計測学分野が設置され、配置換えです。14年にはおしょろ丸5世が竣工しました。15年に年俸制教員を希望して64歳定年です。同年、管理研究棟の改修及び耐震工事が竣工し、また、海洋資源科学科2年次担任で基礎乗船実習を担当しました。新造おしょろ丸はあまりに静音で、強風でうねりの大きな津軽海峡でも風のように安定し、CTD観測可能なことに驚きました。

16年から流動教員として北方生物圏フィールド科学センターに配置換えでしたが、函館キャンパス勤務で教育担当は水産学部と大学院水産科学院です。19年には定置漁業の海亀標識放流でイリジウム衛星通信GPSデータ送信機を取付けました。2年間データ収集する計画で、20年4月末現在、大船漁港から放流したアカウミガメは太平洋の34°N 172°Eを東へ移動中です。

定置網へのスケトウダラ稚魚入網量の資源評価、道南来遊海亀の回遊生態や試作ねむり釣針の漁獲性能等について結果をまだ取り纏め出来ていません。のんびり何をしていたのと言われるでしょうが、現役のつもりで完遂しようと思います。思い返すと、新しくは設置と古くは廃止が次々と有り、非常に刺激的な学生時代、教員時代を通して特別な経験も数多くさせていただき、大変感謝しております。最後になりますが、皆様のご健勝と共に函館と水産科学のますますのご発展を願っております。

退職にあたって

宮下 和夫(特別会員)



私が水産学部で働き始めたのは1985年のことであり、まだ青函連絡船が活躍していた。卒業式が終わると、多くの学生が、函館駅から連絡船に乗って旅立っていました。テープを投げて別れを惜しむ光景は、なんとも懐かしく風情のあるものであった。あれから、34年余りが過ぎ、別れの風景も様変わりした。特に今年は、新型コロナウィルスの影響で、卒業式・修了式もなくなり、研究室の学生が三々五々函館を旅立っていくのを見ると、時間の流れを痛感する。ただ、確かに学生気質は時代とともに変化はしたが、本質に大きな変化はないように思う。あいかわらず、水産学部に来る学生は優秀であり、他人を思いやることができ、全体を俯瞰するバランス能力に長けた学生が多い。そのおかげで私の研究生活・大学生活はたいへん充実したものとなり、自分の能力をはるかに超えた成果が挙げられたように思う。助手として研究室(旧魚油化学研究室)で仕事を始めた当初、若気の至りもあって、研究業績などは湯水のように沸いてでてくるものと思っていた。当然、そんなことはあるはずもなく、時間だけが過ぎていったが、多くの学生のおかげで、何とかここまで到達できた。つきあってくれた学生のみなさんに心から感謝をしたい。

これまでの人生の半分以上を水産学部で過ごしてきたが、4月からは帯広畜産大学で仕事をさせていただくことになった。私の生まれ故郷は長野県であるが、北海道は、私にとって第二の故郷であり、北海道の大地で引き続き仕事をさせていただけることに感謝している。特に、帯広はいかにも北海道らしく、海のないのが少し気になるが、住んでみたいと考えていた土地のひとつである。とはいえ、今、函館を離れることとなり、寂しいことは間違いない。また、なぜか、35年ほど前に、ドキドキしながら函館に来たことが昨日のように思い出されるし、そのときと似た感覚をこの歳になって多少なりとも味わっている。もちろん昔ほど初々しくはないし、歳を経た分団々しくなっているので、平静を装うことは簡単であるが、できるだけこうしたドキドキ感を忘れないでと少し仕事をしたいと考えている。

最後に、これまで水産学部でいただいた恩と縁に心から感謝するとともに、私も含めた同窓生のみなさんの活躍と健康を祈念させていただきたい。

追悼寄稿

木下哲一郎先生（特別会員）を偲ぶ

江川 栄一（昭63ギ）



木下哲一郎先生（写真前列中央）

僕と木下先生との出会いは3年生の時の資源統計学の授業がそうでした。

正規分布などを学びました。そして4年生になって資源生物学講座に入りました。卒業論文の担当の先生は木下先生は仏であるうわさを聞き木下先生に教えて頂きました。

僕の卒業論文のテーマはワカサギの脊椎骨数の地域的に変異があるというものでした。

しかしながら先生は鷹見君には優しく接していましたが僕に対しては大変厳しかったです。就職活動を終え、9月から本格的に準備に入りました。

先生は論議の時も厳しかったです。山下成治先生から質問を受けて僕が答えられずにいると先生が助けてくれました。

その日の午後増殖の先生のところに行き回答を得て山下先生に話に行きました。

無事卒論発表を終え卒業の時みんなで写真を撮

りました。

卒業してからは年賀状のやり取りをしてました。先生が退官する時は宴会などはせず卒業生でお金を出し合って10万円くらいの実体顕微鏡を贈呈しました。平成30年から先生から年賀状が来なくなり、心配して電話したら元気そうでした。

認知症の方は大丈夫ですかと聞いたら大丈夫のこと。ただ足が悪くなつたそうです。88歳になったそなでのお祝いに六花亭の菓子を送りました。

あんなに元気だったので100歳くらいまで生きると思つてました。

苦しまずに逝去されたのがせめてもの救いです。

先生のご冥福をお祈り申し上げます。

第100回

北水同窓会定期総会報告

北水同窓会第100回定期総会 1年延期の決定に関する経緯と令和元年度・ 総会関連議案の取り扱いについて

北水同窓会幹事長 宮澤 晴彦(昭53ギ)

北水同窓会・会員の皆様、本会の活動においては日頃より多大なるご協力を賜り、誠に有難うございます。また、コロナ禍の新たな拡大傾向が懸念される中、皆様におかれましては何かとご苦労の多い日々をお過ごしのことと拝察致します。

さて、皆様ご存じのように、このようなコロナ禍の影響で、本年度の北水同窓会第100回定期総会は1年延期となりました。そのため、本誌には総会報告を掲載できず、学内役員会報告を掲載するという異例の対応となっております。そこで、総会延期という決定に至りました経緯と、本来ならば今年度総会において決定されるべき議案の取り扱いにつきまして、本誌面をお借りし、改めてご説明させて頂きたいと思います。

まず、経緯からご説明致します。周知のように、北海道では2月の札幌雪祭りの頃から新型コロナウィルスの感染者数が急増しておりましたが、そのような状況下で、2月25日に木村名誉会長(北海道大学大学院水産科学研究院長)より“北水同窓会総会の延期を検討すべきではないか”といった趣旨のご示唆を頂きました。そこで、宮澤、安井代表理事、水田前幹事長、岸村副幹事長の4名で直ちに緊急協議を行い、総会を1年延期する方向で調整することと致しました。

そして翌2月26日には、幹事会としての意見を集約するため、全幹事宛に以下のよ

うな緊急の対処方針を通知しました。

- ①総会と記念事業の1年延期(来年函館で開催)を幹事会の方針として確認する。
- ②幹事会で確認した方針について、横山会長のご意向を伺う。
- ③会長の同意が得られたなら、直ちに副会長(3名)、学内理事、函館支部長の承諾を得て、同窓会本部としての意思決定を得たものとする。
- ④上記意思決定を3月の学内役員会で最終確認し、その内容を、1)ホームページへの記載、2)各支部代表への通知、3)参加申込者へのはがきでの返信といった形で広く会員に周知する。
- ⑤本来総会で決定すべき事項(決算・予算、次期幹事の選出等)については学内役

第100回 北水同窓会定期総会報告

員会で決定し、これを『親潮』に掲載して会員各位の事後承諾を得る。

以上の対処方針につきましては、直ちに全幹事の承認が得られたことから、3月2日に幹事長名で「第100回定期総会開催延期の可能性について」という文書を作成し、それを会誌『親潮』発送時に同封する形で、取り急ぎ総会延期の可能性があることを会員諸兄にお伝えしました。また、同日、横山会長宛に「北水同窓会第100回定期総会開催延期に関するお伺い」といった文書をお届けし、この対処方針に関する会長のご意向を伺うことと致しました。その後、会長から総会延期を承諾する旨のご連絡を頂き、幹事会は速やかに上記、③、④の対応を行い、3月19日の学内役員会で最終確認を行いました。以上が、総会延期決定の経緯であります。なお、3月23日に本会ホームページにアップした文書においても、こうした経緯の概略について記載しておりますのでご参照ください。

次に、総会議案の取り扱いについてご説明致します。これにつきましては前述のように、学内役員会における決定を総会決定とみなすということになり、そのため本誌にも学内役員会報告を掲載しているわけですが、皆様からの議案に関するご意見を全く受け付けないということではございません。以下でお示しする学内役員会報告につきまして、何かご意見等ございましたら、本部事務局までどうぞお寄せください。決定内容を変えることは困難ですが、今後の運営に皆様のご意見を生かしていきたいと思います。

今年は総会のほか、4月の学外役員会、9月のホームカミングデイ（HCD）も実施できなくなりました。HCDの中止は本学全体の決定であり、止むを得ないことではあります、前水産庁長官・長谷成人氏（昭56ゾ）を講演者としてお迎えすることになつていただけに、無念の思いを強くしているところです。長谷氏には、もちろんすぐに中止とお詫びのご連絡を致しましたが、この場をお借りして改めてお詫び申し上げたいと思います。

なお、長谷氏は来年HCDが開催できれば、そこで講演して頂けるとのことであり、誠に有り難く、改めて感謝申し上げる次第であります。来年こそ、総会もHCDも恙なく実施できるよう、コロナ禍が一日も早く収束するよう願うばかりです。最後になりましたが、皆様におかれましては感染対策に留意され、ご健勝でありますよう心から祈念致します。

北水同窓会総会(学内役員会)の報告とお礼

- 開催日時: 令和2年3月19日(木) 12時15分より
- 会場: 6F大会議室

式 次 第

定期総会(学内役員会)

- 開会の辞 副幹事長 岸村 栄毅(昭60化)
- 議長選出
- 議案第1号 令和元年度事業経過報告および
会計決算報告
.....幹事長 宮澤 晴彦(昭53ギ) 他

- 議案第2号 令和2年度事業計画および予算案
.....庶務部 丸山 英男(平元化) 他
- その他
- 閉会の辞 副幹事長 岸村 栄毅(昭60化)

■ 総会(学内役員会)次第

1. 開会の辞
副幹事長 岸村 栄毅(昭60化)
2. 議長選出
3. 議案第1号
令和元年度事業経過報告および
会計決算報告
 - (1) 一般経過報告
幹事長 宮澤 晴彦(昭53ギ)
 - (2) 庶務部報告(資料1)
庶務部 丸山 英男(平元化)
 - (3) 編集部報告(資料2)
編集部 山村 織生(平元ギ)
 - (4) 組織部報告(資料3)
組織部 河合 俊郎(平12生)
 - (5) 会計部報告(資料4)
会計部 松野 孝平(平20海)
 - (6) 会計監査報告
監事 清水 晋(昭53ギ)
4. 議案第2号
令和2年度事業計画および予算案
 - (1) 令和2年度役員改選案(資料5)
庶務部 丸山 英男(平元化)
 - (2) 令和2年度事業計画案
幹事長 宮澤 晴彦(昭53ギ)
 - (3) 第100回(令和2年度)定期総会開催地
(函館)について
幹事長 宮澤 晴彦(昭53ギ)

- (4) 令和2年度予算案
 1. 会計部予算案(資料6)
会計部 松野 孝平(平20海)
 2. 編集部予算案(資料7)
編集部 山村 織生(平元ギ)
 3. 組織部予算案(資料8)
組織部 河合 俊郎(平12生)
5. その他
6. 閉会の辞 副幹事長 岸村 栄毅(昭60化)

■ 令和元年度 庶務部報告(資料1)

- 1) 新入会員数

海洋生物科学科	48名
海洋資源科学科	38名
増殖生命科学科	54名
資源機能化学科	51名
大学院(他大学、他学部出身者)	
修士	11名
博士	1名
合計	203名

- 2) 本年度物故者(平成30年度親潮掲載分)

正・準会員	89名
名誉、特別会員	0名
合計	89名

- 3) 会員現在数(3月10日現在)

正・準会員総数	16,000名
物故正・準会員数	3,562名
正・準会員現在数 (内準会員数)	12,438名 (14名)
特別会員数	76名
会員数合計	12,514名

- 4) 新入会員を含めた会員現在数(3月15日現在)

合計	12,717名
----	---------

第100回 北水同窓会定期総会報告

■令和元年度 編集部報告

(親潮発行) (資料2)

	号数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
予算	313号	令元年8月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,300	1,000,000	※1
	314号	令2年2月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,300	1,000,000	※1
	合計		64	16,600	2,000,000	
決算	313号	令元年8月31日	本誌 32頁 (内カラー8頁)	8,300	900,882	※1
	314号	令2年2月28日	本誌カラー 28頁 (内カラー7頁)	8,300	885,610	※1
		令2年3月10日	別刷り 総会延期案内	(8,000)	30,800	
	合計		60	16,600	1,817,292	

※1 印刷会社:有三和印刷 印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む

■令和元年度 組織部報告

(名簿会計) (資料3)

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,410,853	1,410,853	
	一般会計より繰入	1,200,000	1,220,000	
	名簿広告料受取利息	1,500,000	995,000	名簿積立金
支出	合計	4,110,853	3,625,860	
	名簿印刷費	3,600,000	3,622,646	
	次年度繰越金	510,853	3,214	
	合計	4,110,853	3,625,860	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 3,214円)

■令和元年度 会計部報告 (資料4)

1) 一般会計決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,961,101	1,961,101	
	親潮広告料収入	7,600,000	7,440,000	
	雜収入	180,000	240,000	
支出	合計	100,000	332,452	1819名 予算1900名
	親潮印刷費	2,000,000	1,817,292	(資料2) 名簿・親潮発送費含む 函館開催延期
	通信・運搬費	2,000,000	2,158,258	※
支出	総会旅費	100,000	0	
	組織強化費	700,000	308,846	
	ホームカミングデー経費	150,000	109,500	
支出	備品費	30,000	0	
	消耗品費	150,000	132,760	
	会議品費	30,000	30,000	
支出	振替手数料費	180,000	238,525	
	事務嘱託費	2,320,000	2,281,899	
	日用品費	50,000	25,000	
支出	会員費	80,000	75,350	
	備蓄費	20,000	17,048	
	OA機器整備費	50,000	50,000	
支出	名簿会計へ費用	1,200,000	1,220,000	積立 (資料3)
	次年度繰越し	801,101	0	
	合計	1,509,075	9,973,553	

収支差引額(令和2年度に繰越) 1,509,075円

(繰越しの内訳: 銀行預金 1,477,448円、現金31,627円)

※新型コロナウイルスの影響により卒業式、本部役員会、総会を中止及び延期のため
総会補助30万円、本部役員会補助6万円、卒業祝い品6万円は今年度の支出無し

2) OA機器整備費(積立)決算報告

項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金 一般会計より積立	80,807 50,000	
	合計	130,807	130,807
	支出	130,807	130,807
合計	合計	130,807	130,807

(繰越しの内訳 ゆうちょ銀行 130,807円)

3) 特別会計決算報告

項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金 定期預金(マリンバンク)利息	16,318,055	
	合計	16,318,055	16,318,729
	支出	16,318,055	16,318,729
合計	合計	16,318,055	16,318,729

○特別会計資産内容

項目	資産額	摘要
郵便定期預金(新規)	8,380,000	
銀行定期預金(マリンバンク)1口	7,938,729	
合計	16,318,729	

■会計監査報告

北水同窓会の令和元年度における会計監査を実した結果を下記のとおり報告致します。

記

1. 監査対象期間 自 平成31年3月11日
至 令和2年3月10日

2. 出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。
3. 現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

以上

令和2年3月17日

監事 河原 武則
監事 清水晋

■令和2年度 役員改選案 (資料5) [○は新任]

会長 横山 清(昭35エ)

名誉会長 木村暢夫(昭55ギ)

副会長 鈴木賢一(昭36セ)

吉野生壯(〃37ゾ)

樋口達夫(〃50食)

代表理事 安井肇(昭55ゾ)

学内理事 宮澤晴彦(昭53ギ)

尾島孝男(〃54化)

川合祐史(〃55食)

足立伸次(〃55ゾ)

山羽悦郎(〃55ゾ)

工藤勲(〃57化)

関秀司(〃57化)

高木省吾(〃58ギ)

都木靖彰(〃59ゾ)

岸木栄毅(〃60化)

向井徹(〃61ギ)

亀井佳彦(〃61ギ)

水宗浩之(〃61ゾ)

高弘幸(〃61修ギ)

安藤哲也(〃63ギ)

今藤靖浩(〃63化)

大坂桂央(〃63ゾ)

坂高桂一郎(〃元ギ)

高山織力(〃元ギ)

中田啓生(〃元化)

丸山英男(〃元化)

澤細辺智雄(〃元食)

山崎雅史(〃2食)

東藤浩司(〃2食)

監事 河原孝(〃2ゾ)

○関河武則(昭43エ)

学外理事 原秀司(〃57化)

服部保次郎(昭31エ)

箕田嵩(〃31ゾ)

高島優(〃33エ)

山崎文雄(〃33ゾ)

米田義昭(〃34セ)

小祝良介(〃36エ)

大割良了(〃37ギ)

繪面良男(〃37セ)

河古井人(〃37ゾ)

麦谷恒泰(〃37ゾ)

天下井清(〃39エ)

木村昇(昭40セ)

猪上徳雄(〃41セ)

上平幸好(〃41ゾ)

岸富男(〃42ギ)

本勝太郎(〃42ギ)

池勉(〃43ゾ)

仲宏(〃43ゾ)

高豊美(〃44エ)

工昭彦(〃44ゾ)

志直信(〃44ゾ)

山暎平(〃44ゾ)

三浦汀介(〃45ギ)

佐川稔(〃45ギ)

築満(〃45化)

後晃(〃45ゾ)

原彰彦(〃46ゾ)

中重雄(〃47ギ)

目敏美(〃47ギ)

近政斗(〃47食)

黒道則(〃47ゾ)

瀬谷俊一(〃48ギ)

坂本幸造(〃48食)

桜憲(〃48ゾ)

吉井泰人(〃48ゾ)

田野威(〃49ギ)

田浩二(〃51ギ)

石智德(〃51ギ)

平泰宣(〃51化)

増矢衛(〃51ゾ)

上久仁夫(〃53化)

備悟(〃53化)

広淳一(〃55ギ)

前柳也(〃55ギ)

崎永司(平1ギ)

木永也(〃4化)

岡琢也(〃5化)

宮永也(〃5化)

柳琢也(〃5化)

町琢也(〃5化)

藤琢也(〃12資)

○鳥島滋(〃23増生)

○木島潤平(〃25海資)

地方理事 (稚内)

(留萌)

(紋別)

(網走)

(根室)

(釧路)

(旭川)

(十勝)

(苦小牧)

(室蘭)

(札幌)

(札幌)

(小樽)

(余市)

(青森)

(八戸)

(秋田)

(村山)

(庄内)

(盛岡)

(宮古)

(釜石)

(仙台)

(石巻)

(気仙沼)

(福島)

(茨城)

(栃木)

(埼玉)

(館山)

(銚子)

(千葉)

(東京)

(神奈川)

(新潟)

(長野)

(静岡)

(富山)

(石川)

(福井)

(愛知)

(京都・滋賀)

(三重)

(大阪)

(兵庫)

(和歌山)

(鳥取)

(岡山)

(広島)

(鳥根)

(香川)

成(稚内)

正(留萌)

遊(紋別)

葛(網走)

野(根室)

穗(釧路)

齊(旭川)

梶(十勝)

木(苦小牧)

矢(苫小牧)

林(室蘭)

真(札幌)

野(札幌)

佐(札幌)

藤(札幌)

山(札幌)

佐(小樽)

藤(余市)

本(青森)

橋(八戸)

田(秋田)

藤(村山)

佐(庄内)

藤(盛岡)

本(宮古)

橋(釜石)

田(仙台)

葉(石巻)

部(気仙沼)

田(福島)

田(茨城)

田(栃木)

田(埼玉)

田(千葉)

田(東京)

田(神奈川)

田(新潟)

田(長野)

田(静岡)

田(富山)

田(石川)

田(福井)

田(愛知)

田(京都・滋賀)

田(三重)

田(大阪)

田(兵庫)

田(和歌山)

田(鳥取)

田(岡山)

田(広島)

田(鳥根)

田(香川)

成(正内)

正(遊)

慎(葛)

博(野)

博(穗)

明(齊)

司(梶)

司(木)

均(宇)

治(宇)

理(重)

朗(洋)

洋(彦)

久(勝)

敬(敬)

真(禎)

世(朗)

世(世)

朗(46ゾ)

一(44ゾ)

久(47ゾ)

伸(47ゾ)

伸(54ゾ)

伸(55ゾ)

伸(56ゾ)

伸(57ゾ)

伸(58ゾ)

伸(59ゾ)

伸(60ゾ)

伸(61ゾ)

伸(62ゾ)

伸(63ゾ)

伸(64ゾ)

伸(65ゾ)

伸(66ゾ)

伸(67ゾ)

伸(68ゾ)

伸(69ゾ)

伸(70ゾ)

伸(71ゾ)

伸(72ゾ)

伸(73ゾ)

伸(74ゾ)

伸(75ゾ)

伸(76ゾ)

伸(77ゾ)

伸(78ゾ)

伸(79ゾ)

伸(80ゾ)

伸(81ゾ)

伸(82ゾ)

伸(83ゾ)

伸(84ゾ)

伸(85ゾ)

伸(86ゾ)

伸(87ゾ)

伸(88ゾ)

伸(89ゾ)

伸(90ゾ)

伸(91ゾ)

伸(92ゾ)

伸(93ゾ)

伸(94ゾ)

伸(95ゾ)

伸(96ゾ)

伸(97ゾ)

伸(98ゾ)

伸(99ゾ)

伸(100ゾ)

伸(101ゾ)

伸(102ゾ)

伸(103ゾ)

伸(104ゾ)

伸(105ゾ)

伸(106ゾ)

伸(107ゾ)

伸(108ゾ)

伸(109ゾ)

伸(110ゾ)

伸(111ゾ)

伸(112ゾ)

伸(113ゾ)

伸(114ゾ)

伸(115ゾ)

伸(116ゾ)

伸(117ゾ)

伸(118ゾ)

伸(119ゾ)

第100回 北水同窓会定期総会報告

(愛媛) 桑原彰三(昭53ゾ)
 (徳島) 宮本孝則(平元ギ)
 (高知) 蒲原幸男(昭49ギ)
 (福岡) 村上憲男(ゾ51ギ)
 (佐賀) 高橋寛昌(平13海)

(長崎) 渡辺康憲(昭51化)
 (熊本) 渡辺広光(ゾ58食)
 (大分) 武田晴美(ゾ56ギ)
 (宮崎) 未定
 (鹿児島) 松岡達郎(ゾ52ギ)

(沖縄) 渡辺利明(昭52ゾ)
 (韓国) 李春雨(平3博ギ)
 (中国) 田元勇(ゾ2応博)
 (北米) 三浦明夫(昭53ゾ)

令和2年度 本部常任幹事直通電話番号

市外局番(0138)

幹事長	宮澤 晴彦(昭53ギ)	40-8834
副幹事長	○向井 徹(昭61ギ)	40-8853
庶務部	高橋 勇樹(平22海資)	40-5588
	○山木 将悟(平24資機)	40-5567
会計部	東藤 孝(平2ゾ)	40-5615
	○別府 史章(平16資)	40-8802

編集部	中屋 光裕(平11生)	40-8821
	○富安 信(平25海資)	40-8830
組織部	今村 央(昭63ゾ)	40-5539
	○田城 文人(平18生)	40-8848
事務局	吉田 秀美	42-3681

■令和2年度 会計部予算案(資料6)

1)一般会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,509,075	1,700名見込み
	特別会計より繰入	6,800,000	
	親潮広告料入	3,000,000	
	雜取	280,000	
	合	100,000	
合計		11,689,075	
支出	親潮印刷費	2,000,000	(資料8) 親潮発送費(2回分)含む 函館開催※
	通信費	2,000,000	
	会議旅費	100,000	
	組織強化費	700,000	
	ホームページ運営費	150,000	
	消耗品費	30,000	
	消耗品費	130,000	
	消耗品費	30,000	
	振替手数料	210,000	
	事務手数料	2,320,000	
合計		11,689,075	(資料9)

*総会補助30万円、本部役員会補助7万円、卒業祝い品6万円を含む。

2)OA機器整備費(積立)予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金 一般会計より積立	130,807 50,000	
	合計	180,807	
支出	次年度繰越金	180,807	
	合計	180,807	

3)特別会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	16,318,729	
	合計	16,318,729	
支出	一般会計へ	3,000,000	
	次年度繰越金	13,318,729	
合計		13,318,729	

○特別会計資産内容

	項目	資産額	摘要
	郵便定期貯金2口 銀行定期預金(マリンバンク)1口	8,380,000 4,938,729	
	合計	13,318,729	

■令和2年度 編集部予算案

(親潮発行)(資料7)

号数	発行年月日(締切り)	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
315号	令2年8月末(7月10日)	本誌 32頁(内カラー7頁)	8,300	1,000,000	※1
316号	令3年2月末(1月10日)	本誌 32頁(内カラー7頁)	8,300	1,000,000	※1
	合計	64	16,600	2,000,000	

※1 印刷会社:(有)三和印刷
 印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む。

■令和2年度 組織部予算案

(名簿会計)(資料8)

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金 一般会計より繰入	3,214 1,000,000	名簿積立金
	合計	1,003,214	
支出	次年度繰越金	1,003,214	
	合計	1,003,214	

寄稿

新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 対策下での函館キャンパスの現況

北大大学院水産科学研究長 木村 暢夫(昭55ギ)

昨年(2019年)5月、名古屋で開催された北水同窓会定期総会で、横山清会長から函館で盛大に開催するよう激をとばされた北水同窓会第100回定期総会は、残念ながら新型コロナウイルス感染症対策のため中止することになりました。函館での開催に思いを馳せていた同窓の皆様が多いと思われるだけに、非常に残念な決断と成りました。

まだ国内において新型コロナウイルスが完全には収束しない中で、日本では経済の復興に向け社会活動が動き出しました。今後しばらくは新型コロナウイルス感染症と共に存状態が続くことが予想され、第2波、第3波による感染拡大の可能性も示唆されております。現時点では来年(2021年)の状況は分かりませんが、安全に懇親会を開催できる状況になりましたら、1年遅れとはなりますが函館で北水同窓会100周年を同窓の皆様と盛大に祝いたいと思っています。

これまでの北大函館キャンパスと練習船の状況について説明致します。中国武漢で新型コロナウイルス感染症が拡大し、クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」の船内での集団感染が発生しても、当時まだ水際で防げると安易に考えていたところがありました。また、罹患してもそれほど重症化はしないという情報も流れておりました。2月下旬、北海道で罹患者が出始めクラスターが発生し、北大関係者からも罹患者が発生して、急遽北大として感染対策を整える必要に迫られました。

特に水産学部は、練習船の実習航海が計画されており、クルーズ客船の例からも船内感染対策の難しさが明らかとなり、練習船での感染対策が急務でした。早急に「新型コロナウイルス対策室」を立ち上げ、最初に決定したのは、調査に出港したばかりの練習船うしお丸を帰航させたことです。船内での安全対策上、学生を乗船させた航海はできなくなりま

した。その後の社会的動向は、日本中が対応に追われており、皆様の周知の通りです。入学試験の中止、卒業式の中止、そして入学式の中止とほとんどの行事が中止となり、ようやく北大では連休明けの5月11日からはWebによる授業を開始しましたが、キャンパス内から学生・教職員の姿が消えました。感染者が多発している道央圏にある札幌キャンパスと道南の函館キャンパスとの移動は禁じられ、私を含めほとんどの教員は4月からこれまでの3ヶ月間、新入生と2年生の顔を見ておらず、授業はもちろんのこと、キャンパスにもこれずいきなりネット利用による授業が始まった学生に精神や経済面などで問題が生じていないか危惧しています。

春学期*は、Webによる授業や演習を余儀なくされてきましたが、さすがに水産学部・水産科学院の実験や実習をWebだけで行うことは困難です。幸い道南圏では罹患者が4月20日以降1ヵ月以上発生しておらず、学生の移動も行っていない状況を踏まえ、札幌キャンパスの他部局に先駆け、ソーシャルデスタンスを確保する等十分な感染対策を取った上で一部の実験等に対し対面で実施することと、学生の乗船を禁止する等条件付きながら練習船の航海の実施を申し入れ、6月18日夏学期から実験や実習等を再開しました。ようやくキャンパスに学生そして教員が戻ってきました。今後7月中旬には、さらに新型コロナウイルス感染症防止のための北海道大学の行動指針が(BCP)引き下げられることが予定されています。対面による授業も可能になり、学生を乗船させた航海実習も再開されます。なにより、札幌一函館間の移動も可能となり、心配していた札幌キャンパスにいる水産学部生への対応がで



寄稿

きるようになります。ただ、制限がなくなるわけでなく、感染防止に最大限配慮した上での対応、まさにwithコロナの対応が始まります。

幸い、これまで水産学部・水産科学院の学生・院生、および教職員に新型コロナウイルス罹患者は出ておらず、メンタルな問題等も報告されておりません。今後も十分な感染対策をとりながら、教育・研究

を行っていきたいと思います。最後に、同窓の皆様におかれましても、非常に厄介な新型コロナウイルス対策には十分留意され、是非北水同窓会100周年に来函していただきたいと思います。

*水産学部では、現在学部の授業を4学期制(春、夏、秋、および冬ターム)で実施しています。

-速報-

練習船「うしお丸」の代船建造が決まる

北海道大学水産学部うしお丸代船建造小委員会委員長 向井 徹(昭61ギ)

卒業論文、修士論文、博士論文のデータ取得でお世話になった同窓も多々いらっしゃると思いますが、練習船「うしお丸」の代船建造が認められました。令和元年度の補正予算による建造であり、2016年10月にWGを立ち上げてきましたが、我々が予定していた時期よりも2年近く早いものとなりました。最近の国策に謳われている海洋の保全・再生と水産業のスマート化に対処するために、今まで以上に沿岸域における、多面的で高度な漁場・資源管理・海洋保全が必要となり、それらを達成すべく高度な調査・モニタリングが出来る人材の養成を使命として建造にあたります。うしお丸は、日本で唯一亜寒帯の沿岸域で実習できる練習船であり、その特長を維持・発展させつつ、これからも海洋で活躍できる多くの人材を輩出していこうと考えております。竣工は、令和4年を予定しております。竣工の折には、本誌で同窓の皆様にご連絡したいと思いますのでお楽しみに。参考までに、うしお丸の沿革を記載しておきます。

初代うしお丸(総トン数97.7トン)は、昭和46年(1971年)3月に研究潜水船「くろしおⅡ号」の母船として建造されました。乗員12名(乗組員6名、教官・学生6名)の船尾トロール船であり、主として北海道南部周辺の沿岸域において、海洋に関する物理・化学・生物、および漁業に関する漁船、漁具漁法、生物

資源の生理・生態・漁場学等の実験・実習・調査・研究に活躍しました。昭和53年(1978年)12月に潜水船は廃止され、調査専用となり、昭和56年(1981年)11月に居住区の改善、耐航性能の確保、及び海洋観測機器と航海計器の充実を図るため、船体延長工事を実施し、総トン数107.8トン、乗員16名(乗組員6名、教官・学生10名)となりました。同船は漁船の安全性、操縦性に関する研究、生物の挙動、漁具の物理学、水中音響に関する研究、船内作業の安全に関する人間工学的研究に大きな役割を果たしました。その後、うしお丸一世の設備が老朽化し、航海及び教育研究に支障が生じたため、平成4年(1992年)9月に、総トン数128トン、乗員19名(乗組員7名、教官・学生12名)の船尾トロールを装備した本格的漁業調査船である、「うしお丸二世」が竣工しました。本船は函館近海の内浦湾、陸奥湾を中心に漁業調査・実習に活躍しましたが、特設専攻科廃止に伴う「北星丸」の廃船に伴い、本船を拡張して従来より広域かつ規模の大きい漁業・海洋調査に関する教育が可能となるよう、船内諸設備の拡充と調査観測機能の向上を図ることとなり、船体延長・拡幅工事を行い、平成14年(2002年)3月に練習船うしお丸が竣工し、現在に至っております。



バランスドオーシャン

—海洋分野のトップサイエンティスト早期発掘と育成プログラム—

大木 淳之(特別会員)

北海道大学では、水産科学研究院と北方生物圏フィールド科学センターが主体となって、海洋分野のトップサイエンティスト早期発掘と育成、国際的に活躍する若手人材の育成、大学の国際化を目指したバランスドオーシャン事業(機能強化促進事業:2019-2023)を実施しています。WEB上で学ぶことができる教育システム LASBOS (Learning and Study by Balance de Ocean System) を立ち上げて、オンライン教材のLASBOS Moodle (<https://repun-app.fish.hokudai.ac.jp/>)、動画教材のLASBOS YouTube ("lasbos youtube hokudai" で検索)、コレクションカードの LASBOS card を提供しています。北海道大学は研究を重視した大学です。「研究の加速」と「教育の質向上」を両立させた(バランスさせた)教育プログラムでなくてはなりません。まずは、海の分野から始めましょう。ということで、Balance de Ocean と名付けました。海の分野に限る必要はなく、いずれ、北大の各学問分野を "Ocean" に見立てて、それぞれの海を自由に航行できる教育システムの構築を目指しています。

LASBOS Moodle(トップページ:<https://repun-app.fish.hokudai.ac.jp/>)

Moodle LASBOS Learning and Study by Balance de Ocean System

LASBOS Moodleへようこそ

北海道大学にて、トップサイエンティストの早期発掘と育成を目指した「バランスドオーシャン」教育プログラムを実施しています。WEB上で学ぶことができる教育システム LASBOS (Learning and Study by Balance de Ocean System) を開発し、高校生や大学生、研究者に LASBOS Moodle を介して提供しています。また、教育コンテンツの一環として実験や実習を組み合わせできる動画を LASBOS YouTube で公開しています。

LASBOS YouTubeへのリンク
<https://www.youtube.com/channel/UCWo8lePw4Kbut-2Rga7w>

001_マルチブルゴードル

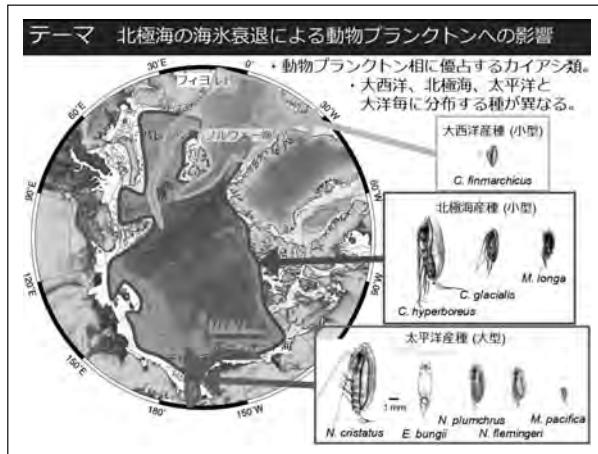
銚路沖水深270m

北大の学生が、分野や学年の枠を超えて海を学べる仕組みを作ります。ウエブの特長を生かして、あるテーマの教材から、別の教材へリンクさせます。リンクを辿って自由に学び、研究まで発展させることを目指しています。LASBOS Moodleはインターネットを介して全世界に発信します。北大生に限らず、高校生や一般、海外学生にも教材を提供して、優秀な学生の獲得、社会教育への貢献もを目指しています。



バランスドオーシャン事業 5種のポスター ポスター写真提供:鈴木将太(平24海生)

LASBOS Moodle (eラーニング教材の例)



eラーニング教材のLASBOS Moodleでは、研究レベルの内容から、それを理解するのに必要な学問基礎の内容までを含みます。従来の実験や実習の授業を強化するため、動画教材を多用したオンライン教材の開発も行っています。教材の英語化も同時進行させて海外大学の学生にも利用してもらい、優秀な留学生を戦略的に集めることにも利用します。

LASBOS card



現物のLASBOS cardを作っています。表面には海関連の写真、裏面には解説とLASBOS YouTubeの関連動画へリンクさせるQRコードを付しています。2020.7時点で23種類のカードができました。このカードを、北海道大学総合博物館の展示物の横に配置したり、道内各地の水族館や博物館、観光施設への配置もお願いする予定です。道内を周遊しながらLASBOS cardを集めもらうことで、本事業の宣伝と観光振興にも貢献したいと思います。

LASBOS Moodle

<https://repun-app.fish.hokudai.ac.jp/>

2020年10月頃一般公開予定



LASBOS YouTube



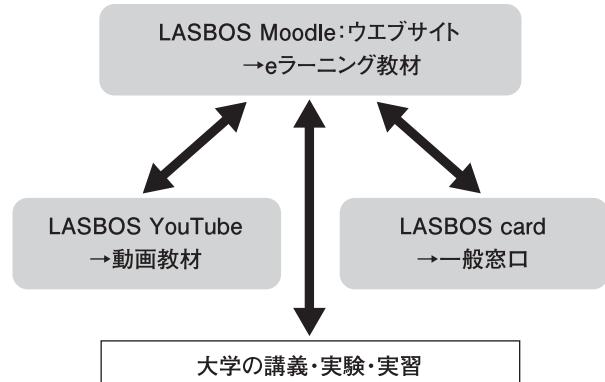
バランスドオーシャンで検索



動画教材サイト(LASBOS YouTubeチャンネルの紹介)



動画教材の開発にも力を入れています。研究での野外観測の様子、実習の様子、自然の風景を撮影しています。その動画に解説字幕を付けて教材とします。この動画教材を深く学べるようにするために、LASBOS YouTubeの動画をLASBOS Moodleに貼り付けてリンクさせます。このリンクを辿って、興味を深めてもらいます。



LASBOS Moodle、LASBOS YouTube、LASBOS cardの三つの道具を生かして、北海道大学の教育研究の発展を目指しています。

バランスドオーシャン スタッフ



統括:向井徹 教授(昭61ギ)、大木淳之 准教授(特別会員)、田中啓之 助教(平元化)
安孝珍 特任助教、山下俊介 特任助教、守田安祐美(平28海生)、山口知香
近藤奈緒、飯田香織

新刊案内

水産科学館長の目線から

大学院水産科学研究院・教授／総合博物館水産科学館・館長 今村 央(昭63ゾ)

2冊の本を紹介したい。一つは北大総合博物館開館20周年記念として出版された「北海道大学総合博物館のすごい標本」(以下、「すごい標本」)、もう一つは「北海道の魚類 全種図鑑」(以下、「北海道の魚類図鑑」)である。どちらも北海道新聞社から2020年に出版された。詳細な図書情報は末尾に示すので参考にして頂きたい。

「すごい標本」は総合博物館教員を中心に12名の著者によって執筆されている。著者には「魚類」を担当された北水同窓会員で同博物館の田城文人助教が含まれる。北大総合博物館に所蔵される約300万点から厳選された「すごい標本100選」が本書の中核で、魚類、陸上植物、藻類、昆虫、考古などの10分野から10点ずつの標本が紹介されている。その他にも、分野ごとに北大研究者を紹介する「博物学者列伝」と、各分野で使われている道具を紹介する「道具箱」のコーナーがある。水産学部関連では、「博物学者列伝」で北水同窓会名誉会員の尼岡邦夫北大名誉教授が紹介されている。

「北海道の魚類図鑑」は上述の尼岡名誉教授を筆頭に、会員の仲谷一宏北大名誉教授と矢部 衛北大名誉教授とともに執筆されている。本書には北海道産のほぼ全種となる651種の魚類が掲載されており、各種の和名、学名、写真(ない場合は描画)の他、形態、生態、分布、利用が簡潔にまとめられている。写真的下には英名、ある場合は地方名も書かれている。各種の紹介の前には「北海道の魚類の多様性」のセクションがあり、北海道の魚類魚類相の特性などがわかりやすくまとめられている。

両書は同じ出版社から出版されていることや、著者に北水同窓会員が含まれていることの他にも共通点がある。すなわち、どちらも学術標本をベースにしていることである。「すごい標本」は総合博物館が編集しており、本のタイトル通り標本を前面に押し出した出版物なのでわかりやすい。一方、「北海道の魚類図鑑」は図鑑という体裁であるため、標本の存在はむしろ影に隠れる。しかし、本書で使用された標本写真の多くは総合博物館の分館に位置づけ

られる水産科学館の魚類写真アーカイブが使われており、各種の形態的特徴は同館に所蔵される魚類標本などに基づいており、これが種同定の根拠にもなる。このように、実は図鑑類も学術標本に裏打ちされた出版物なのである。

水産科学館では魚類の他にも、海棲哺乳類、プランクトン、甲殻類や軟体動物類などの水棲無脊椎



「北海道大学総合博物館のすごい標本」
北海道大学総合博物館編
239pp.ISBN978-4-89453-974-7
2300円(税別)北海道新聞社



「北海道の魚類 全種図鑑」
尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部 衛著
590pp.ISBN978-4-89453-972-3
3600円(税別)北海道新聞社

動物、海藻類などの生物標本や、漁具、和船模型、水産食品関連資料などの学術資料の維持・管理、そしてこれらに加えて北水同窓会資料の展示を行ってきた。大変残念ながら、老朽化が進み、耐震基準を満たしていない水産科学館本館は現在閉館されており、規模を大幅に縮小して別館のみで展示活動を行っている。資料の適切な維持管理、展示のためには新館の建設が強く望まれる。近年新館の設置に向けて申請を繰り返しているが、相当額の自己資金が求められており、財政難の博物館では新築は極めて難しいのが現状である。本学では「北大フロ

ンティア基金」を通して募金活動を行っている（詳しくは <https://www.hokudai.ac.jp/fund/> をご覧下さい）。使途を特定することも可能で、「社会貢献活動支援」として「総合博物館（水産科学館）」とご指定いただければ、水産科学館に特定してご寄付いただくことができる。水産科学館の安定的な社会貢献活動が次の良書の出版にもつながるであろう。新館建設の道はまだまだ険しいが、北水同窓会員の皆様方のお力添えをいただけすると大変心強い限りである。ご理解・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

魚類分類学のすすめ ～あなたも新種を見つけてみませんか？～

河合 俊郎(平12生)

本書は著者である北大水産科学研究院の今村央先生が大学院生時代から現在に至るまでの間、主に研究対象としてきたコチ科魚類を題材として、魚類分類学について一般の方向けに分かりやすく解説した一冊である。カバーにはスナゴチの背面図が大きく描かれていることからも、今村先生のコチ科魚類に対する強い思いが伝わってくる。本書は全6章で構成される。

1章では分類学について、アネサゴチ属やマツバゴチなどに関する今村先生の研究データを例示し、それを基に解説している。

2章では魚類とはどのような仲間なのかについて、概要を記している。

3章では国際動物命名規約について記している。規約の堅苦しい内容を実際の研究例（ナメラオニゴチやセレベスゴチなど）を出しながら、分かりやすく解説している。

4章では魚類標本の採集から登録、固定、保管の方法や重要性、さらに利用されるまでを今村先生の経験を基に解説している。

5章では研究の進め方について、形態学的なデータ収集方法、魚体スケッチの作図方法、論文執筆・投稿の方法などを解説している。



今村 央(著)
2019.海文堂出版、東京
127pp.ISBN 978-4-303-80003-1
1,800円(税別)

河合俊郎 Toshio Kawai : ☎ 041-8611 北海道函館市港町 3-1-1
e-mail: toshio.kawai@fish.hokudai.ac.jp

6章では今村先生の海外での標本観察について記している。本章には研究についてとういうよりは、今村先生の海外での研究以外の生活について主に記されている。海外のビールやワインなどのお酒の写真が多数掲載されることから、「今村先生はいける口である」ことが読み取れる。本書は写真が多く使用されているため、手に取ってパラパラと読みやすい。水産学部生時代に体験したであろう魚類分類学の実験を思い出して、分類学の面白さについて再認識して頂けたらと思う。

クラス会 報告

北水同窓会青森支部 令和2年総会・講演会・懇親会報告

山口 伸治(昭49化)



1列目左より

原口健二(昭47ゾ)、奈良岡修一(昭47ギ)、横山勝幸(昭41ゾ)、
對馬廉介(昭59ギ)、菊谷尚久(昭59ゾ)、菅野溥記(昭37ゾ)、
伊藤博夫(昭41ギ)、渡邊修一(特別会員)

2列目左より

吉田由孝(昭56ゾ)、川村俊一(昭56ギ)、二本柳茂(昭57ギ)、
野呂恭成(昭57ゾ)、泉(松谷)ひかり(平23増生)、金澤保(昭56化)、
佐々木建一(平6化)、田澤亮(平19シ)

3列目左より

山口伸治(昭49化)、吉田達(平元ゾ)、清藤真樹(平6ゾ)、
工藤敏博(昭56化)、伊藤良博(昭53ゾ)、松谷紀明(平23増生)、
宮部好克(平23資化)、東野敏及(平11生)

3列目左より

石川清隆(平19シ)、中山智治(平4ギ)

今年の青森市は雪が少なく、日々の雪かきに追われることもない楽な冬となりました。2月には積雪ゼロとなり、生まれて初めてのこと驚いています。

さて、令和最初となる青森支部令和2年総会・講演会・懇親会は令和2年2月8日(土)、28名の参加者のもと、青森市において開催されました。

総会の冒頭、昨年亡くなられた山形實(昭23ギ)様と山科美奈子(昭57食)様のご冥福をお祈りして全員で黙祷を捧げました。

次に、對馬廉介支部長(昭59ギ)から開会の挨拶があり、事務局から提案された議案の審議が行われ、すべて承認されました。今回は役員改選があり、菊谷尚久氏(昭59ゾ)が新支部長に、山中崇裕氏(昭62ゾ)が新副支部長に加わりました。なお、会場には、秋葉文和氏(昭37ギ)の依頼により、吉田由孝氏

(昭56ゾ)が約1年をかけて製作された初代練習船忍路丸(明治42年就航)の木造帆船模型(1/70)が展示され、参加者から見事な出来栄えにねぎらいの言葉をかけられておりました。

総会終了後に、会員による講演会が行われました。第3回目となる今回は、(地独)青森県産業技術センター内水面研究所松谷紀明氏(平23増生)から「北限漁場小川原湖におけるニホンウナギの生態解明」の演題で、小川原湖の流出河川である高瀬川における天然シラスウナギの来遊と産卵回遊へ向かう銀ウナギが確認され、小川原湖のニホンウナギが東アジア同一産卵資源とながりがあることが示唆されたこと等について講演をいただきました。

続いて集合写真を撮影した後、菅野溥記氏(昭37ゾ)の乾杯の発声で賑やかに懇親会が始まりました。ご参加をいただいた28人お一人ずつからの自己紹介と近況報告をいただくなど和気あいあいで楽しい酒宴となりました。

最後に参加者全員で肩を組みながら、吉田由孝氏(昭56ゾ)の前口上で「水産放浪歌」を、二本柳茂氏(昭57ギ)の前口上で「都ぞ弥生」を大合唱した後、顧問の奈良岡修一氏(昭47ギ)の力強い一本締めと新幹事の清藤真樹氏(平6ゾ)の万歳三唱で閉会となりました。令和2年総会にご参加をいただきました会員の方々に感謝申し上げるとともに、来年もより多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。



昭和53、54年北水増殖学科卒業還暦会 卒業後およそ40年目の集い

伊藤 文成(昭53ゾ)



前列左より、藤井誠二、安部素之、鈴木清隆、森 巖、小野里 担先生、志賀直信先生、櫻井(井辻)久恵、富岡啓二、工藤真弘、
2列目左より、安部夫人、藤沢節茂、岩上哲也、太田恭利、久保光生、堀尾一哉、小見敏一、田端秀平、雜賀 修、伊藤文成、大石浩平、
冨井俊郎、里 昭彦

後列左より、須田昌宏、山本佳嗣、三浦明夫、荒津茂徳、福岡義郎、永田光博、木實谷浩史、日山克之、小山利郎、山岡茂人、船渡川和男

便りが遅くなりましたが、昨年の9月28日にニューオータニイン東京で開催された同期会(還暦会)に、昭和53、54年度に増殖学科を卒業した仲間(52年卒の工藤さん、55年卒の櫻井(井辻)さんも)が集いました。複数年卒業者の集まりになった理由はというと、昭和53年度に卒業すべき鹹水増殖講座のほとんどが卒業を回避して54年卒の仲間入りしたため、机を並べた同窓がゆるく集まったという訳です。

今回の同期会は、3月末に永田君が北海道から東京に出てくるのに合わせ、東京周辺にいる数名が集まつたのがきっかけで、前回の卒後35年目の同窓会(札幌で開催)からもう5年になるし、やろうかとなりました。言い出しちゃが世話役になる慣例により、それ以降、東京周辺在住者(新潟から都度かけつけた藤井君もいましたが)で準備会と称した飲み会を入念に繰り返しつつ、名簿を作り、式次第と役割分担を決め、会場の確認・打ち合わせ等を進めました。司会役は学生時代から抜群のエンターテイナー田端君に参

加確認もないまま即決、飲み会の後には参加を募る電話をかけまくりました。夜中に、酔っ払いからの突然の電話は迷惑だったでしょうが、その甲斐あって、当日は33名参加の盛大な会となりました。

会は世話役リーダーの森君の開会挨拶に始まり、亡くなられた8名の恩師と若くして我々より先に逝った4名の冥福を祈り、永田君の乾杯で宴会へと突入しました。まずは遠路ご参加いただいた小野里擔先生、志賀直信先生からお言葉をもらい、その後、歓談しつつ全員から近況を伝えるスピーチと続きました。人数が多くだったのでそれだけでおよそ2時間、しかし、当日はちょうどラグビーワールドカップの日本対アイルランド戦が行われており、田端君の絶妙な話術による実況などで大いに場が盛り上がりました。定年を過ぎて悠々自適に趣味の生活を送っているもの、ボランティアに精を出しているもの、第二の仕事人生を元気に続けているもの、大学院に入りなおして研究生活を送っているもの、自分の矜持を語るもの、皆

それぞれ40年の歴史と現在が語られました。宴会も終わりに近づき、櫻井さんから先生方への花束贈呈、森君の前口上による水産放浪歌の大合唱と続き、最後に富岡君の閉会の挨拶で一次会が締められました。

一次会は聞き役の時間が長く、まだまだ話し足りなかったとみえ、用意した2次会(藤井君のご子息が働く会場近くのイタリアンレストラン)にもほとんどの仲間が参加し、大いに語り合いました。終わりに、次回は大阪で開催しようという話が進んだことを報告しておきます。

当日参加できなかった以下の先生・諸氏(敬称略)からも一言メッセージをもらい皆で共有しました。次の機会にまたお会いしましょう。

中尾 繁先生、山内皓平先生、仲谷一宏先生、池田暢、石黒武彦、伊藤良博、大久保進一、小笠原正能、紙本洋志、小柳嶺雄、坂本樹則、鳥澤 雅、西内修一、東 剛志、細野優明、松宮隆志、荒井一利、鵜飼俊行、岡内正典

北水同窓会 東京支部総会・新年会報告

岩井 弘光(昭57ギ)



令和2年2月3日(月)19:00から北水同窓会東京支部総会及び新年会が東京都港区銀座のコートヤード・マリオット銀座東武ホテルにて開催されました。

会は冒頭に釜谷幹事長(平3食)による前年度活動と会計の報告と新規の吉田副支部長(平2食)および新任幹事の紹介に続いて、樋口支部長(昭50食)に



よる新型コロナウイルスへの対処方法やどの人種の交渉術が一番上手かというグローバルなご挨拶と乾杯の音頭で開演しました。

年初月初の忙しい時期にもかかわらず、最年長の今井氏(昭26製)から最年少は引地氏(平29海生)、細江氏(平29資化)まで(今年はインフルエンザによるドタキャンもほほなく)総勢127名が集い、和やかに飲み食べ旧交を温めました。

今年度の参加者には、引地聰氏(昭56化)、引地裕子氏(昭57ゾ)、引地景氏(平29海生)と比較的希少な苗字の方が3名もいらしたので、その関係をお聞きしたところ、ご夫婦とそのお嬢様のこと。さっそく壇上におあがりいただき自己紹介と、お嬢様が北水に入られた経緯等をお話いただきました。自身の子供にも北大に入ってほしいと願う卒業生は多数いる中で、それを実践できた方は多くはありません。三人が同窓会ご家族でご参加いただけたのは非常に光栄だと、ご挨拶のあとは大きな拍手に包まれていました。

楽しい時間はあっという間に過ぎるもので、最後は水産放浪歌の前向上を瀧波氏(平4ギ)が、都ぞ弥生の前向上を高田氏(昭60ギ)が、エールを還暦を迎えたわたくし岩井(昭57ギ)が担当したのち、細見副支部長による築地3本締めで閉会となりました。参加者には幹事等からご提供いただいた多数のお土産をお持ち帰ってもらいました。

次年度は例年より1週遅く、令和3年2月8日(月)に、今回と同じ会場のコートヤード・マリオット銀座東武ホテルにて開催する予定です。

※参加者が多いため、個々のお名前は割愛させてもらいました。

北水同窓会広島県支部会'19 報告

中山奈津子(平15海)



前列左から

森岡泰啓(昭38ゾ)、中山奈津子(平15海)、永井達樹(昭48修漁)
後列左から

長谷川昭雄(昭52ギ)、羽原浩史(昭55化)、石田実(昭57ゾ)

平成から令和に変わり新たな時代の幕開けとなつた2019年、北水広島県支部会は例年通り支部会を行いました!令和元年11月2日(土)の午後4時から、北水同窓会広島県支部会'19をJR広島駅ビル内のビヤディング広島ライオンにて開催いたしました。

羽原支部長の挨拶および乾杯の音頭で開宴し、支部活動についての報告や参加者6名の近況報告の後、森岡 泰啓 氏(昭38増殖、前北水広島県支部長)による講演『わが国水産関係教育・試験研究機関の成立の歴史(続編)』を聴講しました。1876年の札幌農学校開校から始まり、我が北水の札幌農学校水産学科時代からの歩みを日本の他の水産機関の歴史や時代背景とともにまとめ上げ、熱く語っていただきました。札幌農学校第一期生伊藤一隆氏や佐藤昌介他ジョン・C・カッター氏の教え子たちの諸活動も紹介され、わが北水が日本の水産学の開拓者であり発展の要であったことを再認識するに至りました。しかし、歴史といえば、持論も含めて語る語る語るは常。懇親会を待たずして乾杯が始まり、森岡氏のお話を肴に話は尽きることなく、非常に盛り上がり、杯を重ねるとともにあつという間に楽しい時間が過ぎました。英気を養った後は、次年度も同時期に開催すること、次回の話題提供者(題未定、長谷川昭雄氏(昭52ギ)などを決めて、閉会となりました。

北水同窓会小樽支部総会

木村 勇基(平25資化)



前列左から

三春清貴(昭58食)、小笠原惇六(昭38工)、木村司(昭61ギ)、
藤田征晴(昭31ゾ)、山本貞夫(昭46化)、磯谷揚一(昭49ゾ)

2列目左より

木村勇基(平25資化)、大見佳明(平11化)、大田道代(平3ゾ)、
梅崎真大(平10ギ)、板谷和彦(平9ギ)、片桐尉晶(平2ギ)

3列目左より

島田英憲(平26海生)、原渕圭(平24海資)、三宅教平(平16生)、
平山聰(昭54ギ)

令和2年2月21日(金)18時より、「日本橋」において令和元年度小樽支部総会および懇親会が開催されました。総会では活動報告、会計報告、次年度役員選出など、一連の議事を行い参加者の皆様にご承認いただきました。総会の後には懇親会が行われ、ご参加いただいた16人お一人ずつからスピーチいただきなどおおいに盛り上がり、2時間があつという間に感じられる楽しい酒宴となりました。会の最後は参加者で最も先輩である藤田征晴さん(昭31ゾ)の乾杯により閉会となりました。来年度も数多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

□学位取得者【令和元年度3月取得】

遠藤 充	魚類における異種由来細胞質が胚発生および配偶子形成に与える影響に関する研究
黒田 真道	異なる起源のゲノムを持つドジョウの配偶子形成過程における特殊な染色体挙動に関する研究
木村 克也	Reassessment of the phylogenetic position of the spiny-scale pricklyfish <i>Hispidoberyx ambagiosus</i> (Beryciformes: Hispidoberycidae) (キンメダイ目魚類 <i>Hispidoberyx ambagiosus</i> の系統的位置の再検証)
陳 莉萍	Study on n-3 polyunsaturated fatty acid-binding phosphatidylglycerol: enzymatic synthesis and biofunctional evaluation (n-3系高度不飽和脂肪酸結合ホスファチジルグリセロールの酵素的合成と生体機能評価に関する研究)
山崎 耀平	Community structure, function, and dynamics of sea cucumber gut microbiome (ナマコ消化管マイクロバイオームの群集構造、機能およびダイナミクス)

□学位取得者【令和2年度6月取得】

小泉 次郎	紅藻スサビノリ <i>Pyropia yezoensis</i> のカロテノイド生合成経路に関する研究
NARSICO JOEMARK TOMETO	Studies on alginate lyases from an alginolytic bacterium <i>Hydrogenophaga</i> sp.strain UMI-18 that produces poly (3-hydroxybutyrate) (ポリヒドロキシ酪酸合成アルギン酸資化細菌 <i>Hydrogenophaga</i> sp.UMI-18 株のアルギン酸リアーゼに関する研究)
小林 直人	噴火湾・日高湾の初夏に発達する3種類の水平渦流の観測と数値実験

□令和2年度 卒業者(学部)・修了者(修士・博士)の就職先一覧

学部

北海道新聞社／いなば食品(株)／今治造船(株)／エムトラスト(株)／大畠開発(株)／株商船三井／株KOKUSAI ELECTRIC
 (株)アニメイトホールディングス／(株)うおいち／(株)開発調査研究所／(株)コスモスイニシア／(株)シジシージャパン／(株)ニトリ／(株)ハニーズ
 (株)ピックルスコーポレーション／(株)マツイ／サノヤスホールディングス(株)／自営業／シュアデザインズ(株)／ソフトバンクグループ(株)
 第一カッター(株)／東京都庁／日本ハム(株)／日本食研ホールディングス(株)／日本水産(株)／日本ピュアフード(株)／姫路科学館／フジフーズ(株)
 北海道漁業共済組合／北海道庁／北海道マツダ販売(株)／三菱総研(株)／(株)TORIDOLL／(株)アシスト北海道
 (株)大和総研ホールディングス／特定非営利活動法人 IMAGINUS(イマジナス)／日本製粉(株)／農林水産消費安全技術センター
 明治飼糧(株)／木村情報技術(株)

修士

(株) サーキュレーション / TNK(株) / アルー(株) / 一般財団法人日本食品分析センター / いであ(株) / いなば食品(株) / 今治造船(株)
エバラ食品工業(株) / 大分県庁 / 大塚製薬(株) / 大峰堂薬品工業(株) / 岡山県庁 / (株)あきんどスシロー / (株)極洋 / (株)CREO / (株)紀文食品
(株)極洋 / (株)コアコンセプト・テクノロジー / (株)湖池屋 / (株)小松製作所 / (株)資生堂 / (株)シロ / (株)ニチレイフーズ
(株)ニチレイロジグループ本社 / (株)ニトリ / (株)日本総合研究所 / (株)友舛飲料 / 関西電力(株) / 近鉄グループホールディングス(株)
クオリサイトテクノロジーズ(株) / クラシエ製薬(株) / ケンコーマヨネーズ(株) / 国際航業(株) / 四国旅客鉄道(株) / 島根県庁
ジャパンマリンユナイテッド(株) / 水産庁 / 住友重機械工業(株) / 双日(株) / ダイコク電機(株) / 千葉県庁 / 中部電力(株) / テーブルマーク(株)
テクバン(株) / テルモ(株) / 独立行政法人日本学術振興会 / 長瀬産業(株) / 日清丸紅飼料(株) / 日鉄物流(株) / 日本クロージャー(株) / 日本製粉(株)
日本チルド物流(株) / 日本放送協会(NHK) / 日本郵船(株) / パーソルキャリア(株) / パブリックコンサルタント(株)
ホクレン農業協同組合連合会 / 北海道庁 / 北海道立総合研究機構 / 丸紅(株) / 万田発酵(株) / 三重県庁 水産課(水産試験場)
三井住友海上(株) / 三菱電機(株) / 宮城県庁 / 山崎製パン(株) / ヤマサ醤油(株) / ライフワンズメディア(株) / 伊那食品工業(株) / (株)J・オイルミルズ
(株)エスエムエス / (株)テクノプロ・R&D社 / (株)トクヤマ / (株)ニチレイフーズ / (株)ニチレイフレッシュ / (株)ビデオリサーチ
(株)みずほフィナンシャルグループ / (株)ワールドインテック テクノ・SI事業部 / 丸美屋食品工業(株) / 岩谷産業(株) / 三菱UFJ銀行
三菱ケミカル(株) / 三菱自動車工業(株) / 三菱電機(株) 中津川製作所 / 産業技術総合研究所 / 水産研究・教育機構
水産研究・教育機構水産総合研究センター / 大日本住友製薬(株) / 日本タタ・コンサルタンシー・サービス / 日本たばこ産業(株)
日本テトラパック(株) / 日本政策金融公庫 / 富士通(株) / 北海道庁 普及職員(水産) / 北海道立総合研究機構

博士

暨南大学(中国) / 浙江工商大学(中国) / ブラウイジャヤ'(大学(インドネシア)) / カントー大学(ベトナム)
キューピー(株) / 国立研究開発法人水産研究・教育機構 国際水産資源研究所 / 一般社団法人上越環境科学センター
愛媛大学南予水産研究センター / 東京農業大学生物産業学部 / (株)資生堂

□会員異動

○令和2年3月31日付 退職

宮下 和夫 大学院水産科学研究院教授が定年のため退職
李 大雄 大学院水産科学研究院助教が定年のため退職
梶原 善之 大学院水産科学研究院特任准教授が任期満了のため退職
三瓶 真 大学院水産科学研究院特任助教が任期満了のため退職
清水 晋 フィールドセンター特任准教授が任期満了のため退職

○令和2年4月1日付 採用

西村 俊哉 大学院水産科学研究院助教に採用
安 孝珍 大学院水産科学研究院特任助教に採用

会員死亡通知

木下哲一郎	(特別会員)	令和2年 5月31日	江川 栄一(昭63ギ)様より
竹末 敏男	(昭16ギ)	令和元年12月	ご家族様より
宮本 茂雄	(昭16ギ)	令和元年 5月 3日	ご家族様より
東条 英悟	(昭19ゾ)	令和2年 3月22日	ご家族様より
市川 渡	(昭22ギ)	令和2年 7月 7日	ご家族様より
品川 滋	(昭22セ)	令和2年 4月10日	ご家族様より
江渡 唯信	(昭22ゾ)	令和2年 4月13日	ご家族様より
井部 勉	(昭23ギ)	令和2年 2月28日	ご家族様より
小島 伊織	(昭23ギ)	令和元年 6月 9日	小笠原惇六(昭38エ)様より
藤森 成美	(昭23ゾ)	令和元年11月 1日	ご家族様より
井田 正義	(昭25エ)	平成31年 1月 3日	ご家族様より
福田 節夫	(昭26エ)	令和元年 8月	ご家族様より
佐藤 義昭	(昭26セ)	令和元年10月 6日	小樽支部様より
真壁 正美	(昭26セ)	平成30年 7月	ご家族様より
遊佐 和彦	(昭26ゾ)		八戸支部様より
小野 彌	(昭28セ)	令和元年 9月10日	ご家族様より
鈴木 正志	(昭29エ)	平成27年12月 9日	ご家族様より
土井 晃一	(昭29セ)	令和元年12月20日	ご家族様より
林 清	(昭29ゾ)	平成30年 9月29日	ご家族様より
寺川 浩	(昭31セ)	令和元年 9月21日	ご家族様より
大岩 保明	(昭31ゾ)	令和2年 3月10日	ご家族様より
小松原 清	(昭33エ)	平成26年 2月	ご家族様より
下条 修平	(昭34セ)	令和2年 3月19日	小樽支部様より
大浦 久司	(昭35セ)	令和2年 1月30日	ご家族様より
滋野 三樹	(昭36エ)	令和元年 7月30日	ご家族様より
遠藤 洋一	(昭37ゾ)	令和2年 6月20日	菅 紀元(昭37ゾ)様より
前田 征宏	(昭40セ)	令和元年11月12日	ご家族様より
塩谷 優	(昭42セ)	令和2年 2月21日	ご家族様より
三木 智憲	(昭43ゾ)	平成30年 9月	ご家族様より
武田 正宣	(昭45ギ)	令和2年 1月22日	ご家族様より
屋代 正明	(昭47化)	令和元年 9月29日	伊藤 一幸(昭47化)様より
上沢 清	(昭49化)		池田 裕司(昭49ゾ)様より
新妻 昭夫	(昭49ゾ)	平成22年11月 9日	池田 裕司(昭49ゾ)様より
安永 達史	(昭61ゾ)	令和2年 5月 2日	山口 修司(昭61ゾ)様より

親潮投稿規定

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

各種活動や出版物の告知・紹介、本誌への感想など。個人的な連絡は対象とせず、1記事につき300字以内。同窓会あてのメール(hokusualumni@gmail.com)にて受け付けます。写真は入れられません。

[編集後記]

昨年度末から続く、新型コロナウイルスの影響により、あらゆる活動に制限が設けられ、さまざまな感染拡大防止策が講じられているなか、皆様いかがお過ごしでしょうか。北海道大学函館キャンパスでも本ウイルスに関する対策を実施しており、これらの概要について木村暢夫学部長から説明いただきました。また、宮澤晴彦幹事長からは本年4月の学外役員会の中止、5月に予定されていた北水同窓会第100回定期総会の1年延期および9月のホームカミングデイ(HCD)の中止に至る経緯を説明いただきました。本禍について今はまだ、いつ収束するか見通しの立たない状態にあります。本号では、精神的な健康を保ちながら気長に対策を行うため、北水にまつわる明るいネタを掲載させていただきました。

特集では、前号の特集(生きの良い助教の先生方の紹介)に続く北水の若い力ということで、希少価値が高まりつつある博士後期課程に在籍する院生(この春D3になった)を紹介させていただきました。今も昔も変わらない、いろいろ考えて進学したというより、気づいたら博士後期課程に入っていたという空氣漂う、院生たちの研究を知っていただき、お引き立ていただければ幸いです。執筆いただいた院生諸氏には、研究活動も佳境に入り忙しいなか、編集にご協力いただき御礼申し上げます。寄稿として、水産学部附属練習船うしお丸の代船建造について、その経緯を向井徹練習船運営委員長に執筆いただきました。また、昨年から水産科学研究院と北方生物圏フィールド科学センターが主体となって、海洋分野のトップサイエンティストの早期発掘と育成、国際的に活躍する若手人材の育成、大学の国際化を目指した事業、バランスドオーシャン(機能強化促進事業:2019-2023)が実施されています。これら取り組みについて、大木淳之先生に執筆いただきました。新刊紹介では、水産学部教員が関わる書籍を紹介させていただきました。

次年度第2号(通算316号)の原稿の締め切りは、2021年1月15日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(hokusualumni@gmail.com)にて受け付けております。その他、支部報告や同期会報告、著者の紹介など、多くの原稿をご投稿下さいますようお願い申し上げます。なお、親潮では同窓の方々の交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。また、本誌に対するご意見やご感想なども募集しております。詳しくは投稿規定をご参照ください。

編集幹事／中屋 光裕(平11生)

令和2年9月発行
北水同窓会
〒041-8611 函館市港町3-1-1
TEL & FAX.0138-42-3681
E-mail:hokusualumni@gmail.com



つるはち 株式会社 釣八

URL <http://www.tsuru8.co.jp/>

よく間違えられますが、「つるはち」って読みます。

社長の名前が「つるみ」だから。

世界中の海から、イカ、赤魚、サバ等なじみのある水産物を、

いま、求められるかたちにして、お届けできるように奮闘努力刻苦勉励

代表取締役社長 釣見 泰之(昭和59年 漁業学科卒)

【水産学部卒業社員】 土井 倫行(昭和60年卒) 奥田 和人(昭和60年卒)

本社

〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル2F
TEL03-3297-8883 FAX03-3297-8885

八戸支店	〒031-0082 青森県八戸市常海町13-2 サンデュエル内丸1203	TEL 0178-71-3488
銚子支店	〒288-0051 千葉県銚子市飯沼町186-93 八木友ビル2F	TEL 0479-25-8822
大阪支店	〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江3-14-12 イイダビル2-2A	TEL 06-6532-8886
福岡支店	〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-18-28 フクオカビル7F	TEL 092-401-8828
関連会社	築地:(株)釣十(マグロ仲卸) 中国:大連釣八(水産物加工) アメリカ・ロスアンジェルス:フィッシングエイト タイ・バンコク:釣八タイランド	

F P魚雄

礼文北部 エゾメバル・ガヤモドギ

オクトム

苦小牧 ミズタコ

カルペース付き

F P 1.5 G

熊石 マコンブ

海洋土木株式会社

〒142-0043 東京都品川区二葉2-11-5

代表取締役 木實谷浩史 (54才)

取締役副社長 石井直志 (49才)

専務取締役 幡宮輝雄 (57才)

青森営業所長 山口伸治 (49才)

北陸営業所長 魚住昭文 (52才)

札幌支店部長 日和久典 (平6才)

玉館竹田

食卓に函館の味を



**株式会社
竹田食品**

代表取締役 竹田寿広

本社工場 函館市浅野町3番10号
TEL (0138) 43-1110(代) FAX (0138) 43-1113

札幌営業所 札幌市中央区北13条西19丁目1番1号
(水産保冷配達センター3F)
TEL (011) 623-0990 FAX (011) 644-9910

竹田食品販売(株) 東京都中央区築地7丁目5番3号(紀文第一ビル2階)
TEL (03) 6226-6820 FAX (03) 3545-2135

竹田食品販売(株) 大阪府大阪市淀川区西中島4丁目3番5号
(NLCセントラルビル5階)
TEL (06) 6307-5311 FAX (06) 6307-5358



交通事故、労働災害、医療過誤、倒産、債務整理、サラ金破産
個人再生、未払い残業代請求、離婚、相続、遺言、成年後見

相談料は全て無料です

吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世
(昭和48年増殖学科卒業)

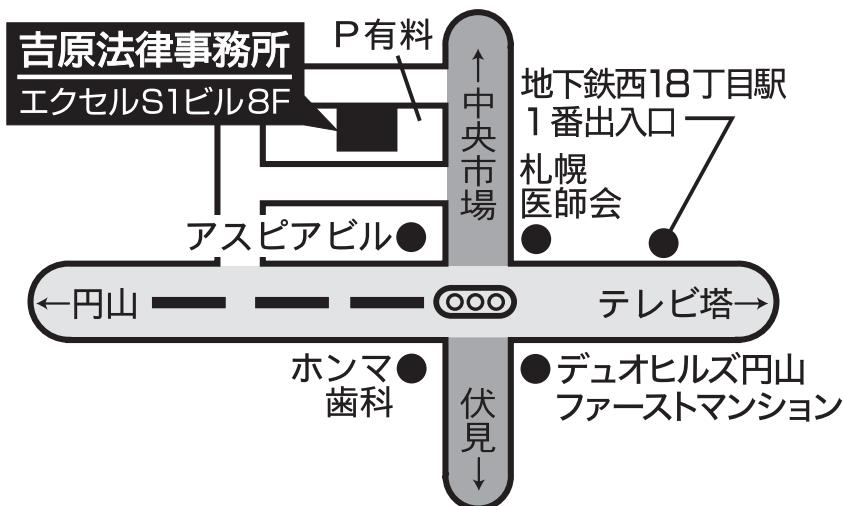
お気軽にお問い合わせ下さい

TEL 622-7963 FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20(エクセルS1ビル8F)

(交通)東西線西18丁目地下鉄1番出口

(E-mail) lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においでになれない方はご相談下さい。